

第33期第5回社会教育委員会議 意見等整理表(案)

資料3

枚方市教育委員会
社会教育部

1.資料 高齢化社会における社会教育について

No.	項目	委員名	内 容	論点	対応方策	備考
2	検討に当たった の考え方	志保田委員	表の紙の下の方に、現在本市の社会教育行政が担っている内容は次の5点であるとして書いてありますね。これは間違いないことだろうと思うんですけども、裏に回って3番目、文化活動の育成、スポーツ振興、図書館サービス、この3つはそれぞれ重要で、それぞれ関係があると思うんですけども、できることなら文化活動と図書館サービスというのを隣合わせになるような番号にされたらどうかなと思うんです。ということは、今度図書館機構の変更で三者一体のような指定管理者制度を取り入れたということは、システムとしてそれはそれなりのことなんですけれども、それを生かしていくには、これらの機構と一緒に働くような観念が必要かと思えます。したがって、文化施設と図書館サービスをくっつけておいたほうが、あるいは1番の成人教育と文化活動と図書館サービスを3つ一緒にされて、そこいらで三位一体の活動をトータルしていかれるという方向がよろしいのではないかと私は思うんですけども、そのほうが新たにお立てになりました三位一体の活動をしていくために指定管理者化するという考え方に一応は沿うのではないかと考えるのですが、いかがでございましょうか。	社会教育行政が担っている5つの内容の表記方法について	ご意見を踏まえ、記述の修正を行います。	修正箇所：資料「高齢化社会における社会教育について」の「2. 検討に当たったの考え方」(1ページ下部枠囲み)参照
		志保田委員	平成18年度から組織変えになって、生涯学習推進の一翼としてとらえるというのが、社会教育行政におけるとらえ方として表現されているんですけども、多少苦しいといえますか、市長部局で起こってきた変化の影響を受けているような気がするんですね。それで、次長のご発言にありましたように、この体制についても考え直す必要があるのだったら考え直したらいいということではございますが、市長部局、市長におけるトータルの生涯学習的な物の把握、必要性は、例えば外国人とかその他の市全体のサービスの中でとらえるべき問題がありますので、市長のもとでの組織の中にそういうのがあってもいいとは思いますが、できるだけ生涯学習という教育、もとは社会教育の一端だったんですが、教育に関することはやはり教育委員会のほうで重点的に引き受けていただく方向でトータルしていただいたらいいのではないかと、その2点を提案ということにしたいんですが。	市における生涯学習と社会教育の所管のあり方について	記述の中で、「本市の社会教育が担うべき役割や今後進むべき方向を明らかにしていくことが必要である」としており、提案を踏まえて検討を進めていきます。	記述箇所：資料「高齢化社会における社会教育について」の「2. 検討に当たったの考え方」(2ページ行目)参照
		志保田委員	資料1の表のページの下の方に、現在市の社会教育行政が担っているというところの前の部分の塊の中に、高齢化が進行する社会の中で、全ての世代を対象としてどのような社会教育行政を今後行っていくべきかを検討することが求められているということは、若年の方とかそういった方をケアすることも大事であるというご意見がほかの委員さんからありましたように、これは重要な意見だと思うんですが、これ以外に、例えば枚方の図書館が世間でわりと有名なのに、身体障害者サービスというのがあります。また、ほかに多分、外国人労働者も、コマツさんなんかを中心として入ってきている可能性があると思いますね。そういったことでありますので、障害者サービス、あるいは多文化サービス、多言語、そういったことも、年齢階層だけではなくて、ジェネリックな刻みの中でも把握していくということが必要ではないかなと思います。	高齢化社会における社会教育行政の対象の捉え方に関する記述について	ご意見を踏まえ、記述の修正を行います。	修正箇所：資料「高齢化社会における社会教育について」の「2. 検討に当たったの考え方」(1ページ15行目)参照
		西田委員	私は高齢者の人たち対象の生涯学習で、生きがい創造学園を担当していたんですけども、成人教育の中に入りますし、その一環の中で考えていったらいいのではないかと思います。			
		中村委員	高齢化もそうですけれども、ここに書かれています少子化は、もう学校に即響くことでもあるので。ただ、それに伴って、保護者層への配慮とか、そここのところも、就労のことも含めてしていかないと、支える子どもたちの数が減るといことはそれはそれで問題ですけども、それだけではなくて、就労の面でも問題になっていくなど、このテーマでずっと進めていっていただいているんですけども、そういうことも視野に入れながら考えたいなと思っています。			
		服部委員	●就労は、高齢者の仕事ということも含めて考えていってもいいという意味ですか。 ●イメージとして、社会教育というのが前提にありましたので、あまりいろいろと言うのもどうかというのを、私自身が持っていたものですから、それでいいんですかという念を押したわけです。			
志保田委員	強いていえばそういう問題ですけども、やはり西田委員が言われたように、高齢者とか少子化、小さい子どもの就職があるかどうかは別として、そういうのに関係したところに集中した方がいいでしょうね。だから、その子どもをみている親、そういった関係に収斂して行って、単なる職安とかそういう感じのものとは関係がないところでしていただきたいと思えます。	「就労の問題」の議論のあり方について	「就労面での問題」についても社会教育の問題の一環として捉える中で議論を行います。			